



Data

監督: ジェームズ・マーシュ
出演: コリン・ファース/レイチェル・ワイズ/デヴィッド・シユリス/ケン・ストット

.....
.....
.....
.....
.....

■ ショートコメント ■

◆2019年のNHK大河ドラマとして始まった『いだてん』は1912年のストックホルムオリンピックのマラソン大会で、何ともいえないドラマを演じた日本人ランナー金栗四三(かなぐりしそう)の物語だが、きっと多くの日本人はそれを知らないだろう。しかし、それ以上に日本人がきっと知らないのが、本作で描かれたコリン・ファース演じるドナルド・クローハーストという人物。

◆ドナルドは、私が大学1年生を過ごしていた1968年に、イギリスの小さな町テインマスで開催された「単独無寄港世界一周ヨットレース」に出場した人物だ。日本国民の大きな期待を背負ってスタートした金栗四三が結局ゴールに到達できなかったのと同じように、ドナルドもレースの途中で挫折してしまったが、それは一体なぜ？

コリン・ファースとレイチェル・ワイズの共演、しかも『喜望峰の風に乗せて』という邦題をみて、私は何の予備知識もないまま、本作は前向きの元気を与えてくれる映画だと思っていたが、実はその正反対。しかし、なぜ今そんな映画が・・・？

◆船舶用の測定器を開発し、起業したものの、会社がうまく軌道に乗らないドナルドは、5000ポンドという優勝賞金とそこで優勝すれば自社開発の船舶用の測定器が売れると踏み、ヨットでの遠洋航海の経験がないにもかかわらず、優勝を目指してこれに参加することに。

本作導入部では、妻クレア(レイチェル・ワイズ)の心配をよそに、ヨットづくりから資金集めまであらゆる準備に奔走するドナルドの姿が描かれる。彼の姿はイギリスらしく理詰めかつ前向きだが、どこか素人っぽいからこれでホントに大丈夫？そう思っている

と、案の定・・・。

◆スタートしてすぐヨットの揺れに船酔いする دونالدの姿をみて、アレレ・・・。さらに、エンジンルームに浸水したり電気系統が壊れるなど、彼のヨットのオンボロぶりにもアレレ・・・。嵐の中でたたきつけられている姿をみていると、これで即沈没か、と思ったが、何とかもちこたえたのは立派。しかし、これで一体どこまで進んだの・・・？

本作のタイトルは『喜望峰の風に乗せて』だが、喜望峰に到達するには大西洋を南下してアフリカ大陸の南端まで行かなければならないはずだ。出発当初の無線での妻子との会話は順調だったが、Donaldのマスコミ担当になっているロドニー・ホールワース（デヴィッド・シューリス）への定期報告は・・・？

◆本作の実質的なハイライトは、本作中盤にみる Donaldの“ある決断”。イギリスから海路で世界一周するためには、喜望峰を超えて、太平洋に入った後の方が大変。そのことは、子供の頃にコロンブスやヴァスコ・ダ・ガマの世界一周の冒険物語をむさぼるように読んで私もよく知っている。ところが、Donaldのヨットは大西洋を南下してだけでヨタヨタ状態だから、これではレースでの順位はおろか、完走することすらおぼつかないのでは？

レースに参加していると言うためには、俺のヨットは今どこまで到達している必要があるの？そう考えた Donaldは、さまざまな自問自答を繰り返した末、ついに“ある決断”を！

◆本作については、これ以上書いてはネタバレになってしまうので、ここでおしまい。後は自分自身の目で確認してもらいたい。しかし、再度繰り返せば、なぜ今コリン・ファースの主演で、こんな“偽装”映画を・・・？

2019（平成31）年1月15日記